



ともに伸びる馬室っ子 ~あせがきらきら馬室っ子~

令和6年3月1日

3月号

鴻巣市立馬室小学校
電話 541-0578

馬室小だより



感謝の気持ちを込めて ~最高学年としての行動に拍手!~

校長 齋地 満

やわらかな陽ざしに木々や草花の芽も膨らみ始め、令和5年度も残すところわずかとなりました。先日の授業参観・懇談会では、子供たちの成長した姿をご覧になっていただけたことと思います。今後も、進級や進学に向けてよいスタートが切れるよう取り組んでまいりますので、ご家庭でも励ましや温かい声掛けをお願いいたします。

さて、時に教師の話よりも子供同士の言葉や行動の方が、よりよい効果をもたらすことがあります。1月の避難訓練を通して、6年生の児童会委員から全校に伝えたメッセージが素晴らしかったので、心に残った言葉を紹介します。

石川県で起きた地震や校長先生の体験談から、自然災害の恐ろしさをしっかりと考えなければいけないと思いました。『自分の命は、自分で守る』ことが大切という話を聞いて、自分の命を守ることは、自分のためだけではなく、大切な人を守ることと同じだと思いました。それは、みんな誰かの大切な人だからです。

3月に巣立っていく卒業生の言葉は重みがあり、家族や仲間との絆を感じるメッセージでした。他にも、6年生は休み時間の終わりに「教室へ帰るよ」と呼び掛け、けじめのある生活を示唆してくれるなど、最高学年としての役目をしっかりと果たし、よき手本となってくれました。この伝統を在校生にも引き継いでほしいと思います。

さて、話は大きく変わりますが、学校では「学習指導要領」に示されている各教科等の内容や標準授業時数等を基に、年間を35週としてカリキュラムを編成しています。しかし、本年度は42週にわたってカリキュラムを行っているので、標準授業時数より多く授業が行われており、これを「余剰時数」と言います。「余剰時数」は、学習活動や学校行事、クラブ・委員会活動等に活用していましたが、このほど文部科学省より「授業時数や学校行事の在り方の見直し」についての通知があり、「必要最小限の授業時数の設定や学校行事の精選・重点化、準備時間の短縮を図るなど、総合的に総授業時数の削減を図ること」が求められました。そのため、①5時間授業の日や短縮日課の日を増やす。②学年によって週で1時間や隔週で1時間、授業時数を減らす。③日課表の見直し、を検討しています。現在、市内の小学校と情報交換を行っており、詳細は4月の懇談会でお伝えします。

最後になりましたが、保護者及び地域の皆様には子供たちの健やかな成長のため、1年を通じて教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。職員一同心より感謝を申し上げます。